Osaka Shoin Women's University Repository

天保七年
一月六日

小津桂窓宛瀧澤馬琴書翰

木村三四吾

申正月十四日着、十五日ニ済

別啓本文　（コノ二行、桂窓筆）

別翰啓上仕候。春寒退かね候処、貴地御揃弥御清穆被成御起居、奉賀候。随而蔽屋、無異罷在候。乍憚貴意休思召可被下候。然者、旧冬十二月二日之御状、同月十三日午後東着、忝致拝見候。其節も尚御多用のよしニ候処、先便の御報、件々被仰越、数回熟讀、承知仕候。右御答、一々に申述候もくだ〳〵しく、且あまり及長文、御覧も御勞煩と奉存候間、事済候義者省略いたし、御答不仕、要緊之義のミ及再答候。但し、此御報者後案にいたし、先当用の義を先ハ得貴意候。

一　八犬伝九輯中帙七冊の内四冊、旧臘四日ニうり出し候間、其節、如例紙包ニいたし、飛脚へ指出し候。定而順着ニて、御入手被下、被成御覧候半と奉存候。尚又、残り三冊、当早春二日ニうり出し候。十二ノ下、ほり不宜、校合十二月廿七日ニいたし終り、それ〻残り分すり込、製本いたし、二日うり出しの間ニ合せ候事故、野生も夜寒を忍び、夜分も九時頃迄校合いたし遣し候。此間の苦心、御亮察可被成下候。右之仕合故、製本・仕立、元日の夜八時過出来のよし。依之、二日朝、

Osaka Shoin Women's University Repository

新本板元ゟ差越候。三日ハ飛脚休日ニ付、四日ニ差出し可申存候処、日々年始来客ニて、書状ハさら也、包ミ候いとまも無之候間、意外ニ延引、則今日、壱部飛脚へ如例包ミ、差出し候。着之節、御改、御受取可被下候。如前文、火急ニ校正いたし遣し候事故、悞写の見遺しも多く可有之候。御覧之節、御心つかれ候義者、異日御指教可被成候。勿論御高評も、御手透之節、御見セ被下候様奉希候。直段ハ、先便一寸得御意候通り、拾弐匁ニ御座候。此段も御承知可被下候。

一　新編金瓶梅第四集八冊合四冊著編之事、先便も得御意候ごとく、旧冬十月下旬ゟ稿本ニ取かゝり、十一月二日ニ稿本二冊板元へ遣し、それゟ追々差急ギ綴立候内、八犬伝校合等おち合、寔ニ大くるしミいたし、やう〳〵十二月十四日ニ、八冊の画幷ニ筆工、惣上りニ御座候。尤、板ハ半丁づゝニ挽わらせ、彫刻料平生の一倍高料に出し、江戸中上手の彫工ニ一、二枚づゝわけて渡し候故、彫刻速ニ出来、上帙合二冊ハ十二月廿八日ニうり出し候。神速寔ニ驚れ候事ニ御座候。下帙廿丁者当正月元日夕ニほり揃ひ、同二日夕校合いたし畢り、今日うり出し候。右之仕合故、製本急ニ多く出来かね候間、去年のごとく速にハ御手ニ入かね候半と奉存候間、是亦今日之幸便ニ任せ、上帙・下帙とも封入いたし候。代料ハ聊の品故、致進上候ても不苦候得ども、左様ニては、又御返礼の御心配等あらせられ候てハ、却テ□（字影磨損、或ハ慮カ）外之仕合ニ可有之間、右之直段も左ニしるし申候。おろしうり、上帙・下帙とも壱匁壱分づゝニて、弐匁弐分御座候。八犬伝、此度之拾弐匁ト共ニ、拾四匁弐分ニ御座候。八犬伝差出し、少々及延引候故、金瓶梅下帙も一緒ニ差出し候事ニ相成候也。

一　此金瓶梅稿本、如例改名主へ差出し候処、そが中に、新役の名主、左までもなき事をむつかしく申もの一人有之、此度も十九丁・廿丁の間、苫四郎等訴の画がら、奉行所の白洲のやうニていかゞに付、画がら改むべしと付札いたし、幷ニ、下帙曳水が瓶子の針治いたし候処同断ニ付、画がら改むべしと付札いたし、此外ニも付札二、三ケ処有之、板元ゟ、いかゞ可仕哉、画を直させ、入木直しいたし候てハ、年内のうり物にならず、甚こまり候、尤、内々賄賂を遣ひ候ヘバ事済候先例も有之、左様いたし候てもかけ合ニひま入候よし、申候。依之、右訴の処江縁類を書（ママ）とらせ可申旨指教いたし、幷ニ、曳水針

Osaka Shoin Women's University Repository

治の処ハ曳水をかきとらせ、瓶子のミにいたし候様申示し候間、右之通りニいたし、事済候。然ル処、此本ハ右の縁頰を闕キとらぬ已前、わづかに拾部許すらせ候その一部ニ御座候。此縁頰のあるハ千金を出し候ても別ニ無之候故、則縁頰あるを入貴覧候。下帙ハいまだ彫刻中の事故、曳水をほらせず、瓶子のミにいたし候故、画がら不都合、不及是非候。かやう事、看官の御存なき事故、極内々ながら御笑ニ注し申候。田舎源氏抔ニハ毎度かやうの障り有之、板元〇印をつかひ、事済せ候よし。拙作にハ、四十余年来はじめて如此障りを被申、いとをかしく存候へども、先キハ役義の事、爭ふても無益ニ付、右之ごとく取斗せ、旧冬のうり出し、故障無之相済候事ニ御座候。

〇是〻先便の略御答、得貴意候。

一　旧冬貸進の畳翠君俠客伝の評書、幷ニ貴評八犬伝九輯上帙の御再答、右二綴、黙老帰郷日記一冊、右返却被成、だら便ニて飛脚へ御出しのよし御案内被仰越、承知仕候。且又、去年十月中御上京の節、大坂ニて御初見の仁、増補四十回本の平妖伝写本を蔵弃のよし。御求被成度、御相談被成候へども、ハキとしたる返事も無之故、出来かね候事ト思召候処、御帰郷の後、先方〻右写本二十冊送り越され候故、早速御購取被成候よし、巨細ニ被仰越、御同慶不少奉存候。然処、貴兄ハ御多用故、一日もはやく小生ニ御見せ被成度思召、右御返却の拙蔵書同封ニて飛脚へ御出し被下候よし。尤、ゆる〳〵入用の巻写し取候様御示教之趣、逐一承知、尤忝仕合、本望之至ニ御座候。尤、紙包者、御状着後、十二月廿七日夕、当所飛脚問屋いづミや甚兵衛〻届ケ来り、入手仕候。尤、さまでの荷摺レも無之候間、御安心可被下候。其節ハ金瓶梅挍合最中、且大晦日前ニて、内外共多用、寔ニ不得寸暇候へども、片時も堪かね候間、着早々紙包解ひらき、当晩平妖伝前後の巻繙閲いたし、九時迄ニ拙蔵本と比挍いたし候事ニて、厚く御礼申上候。但し、二十七回迄ハ所蔵の本御座候。廿八回〻末四冊許、御かし被下候ても宜候処、よほど貫目有之、全部御遣被下候故、御失脚と奉存候。扨、今般御求め被成候写本廿冊ハ、泰昌元年の板本を写し候ニて御座候。右泰昌元年の板本ハ唐山ニて火に係り、板亡失ニ付、其後再刻いたし候本、則拙蔵本の方ニ

Osaka Shoin Women's University Repository

御座候。依之、序文ニ少々づゝ出入有りて、文のちがひ候処有之候。是ハ、序者、右重刻の節、旧文を少しづゝ直し候事ト見え候。且、写本ニハ、開端の文弐、三丁有之候。重訂の拙蔵本ハ、この開端の文無之候。本文ニあづからぬ事故、重刻の折、開端の文ハ除キ候事と思れ候。本文ハあらまし比校いたし候処、新旧各とも相違無之候。惜イかな、四十回の末文壱丁弱破裂の本を写し候と見えて、末文闕如いたし、聖姑□（書影欠、或ハ女カ）の着落しれかね、是のミ遺憾の至ニ候。加之筆者見写しニ致し候と見えて、脱字も処々御座候。且、大字ニ写し候故、拙蔵本ゟ大本ニ候間、写し足シても本の形合ひ不申候。見写シに致させ候てハ、脱字多く出来候半と存候故、矢張透うつしに写させ、廿八回ゟ末四冊者帙を別ニ致させ、大小二帙ニいたし、蔵弆可致存候。そはとまれかくまれ、得がたき珍書、たま〳〵御手ニ入候処、未被成御覧候て、遠方はる〴〵と御見せ被下候。御同好の故とハ申ながら、御深志、千謝万悦仕候。早速写しとらせ、返却致し度奉存候へども、後の為の記いまだ写しをハらず、筆工とかく遅引勝ニ候へバ、意外ニ延引可仕哉難斗候。此段、かねて御許諾可被成下候。当春永に熟覧の上、愚評ハ異日得貴意候。

一　詩句題ニて御歌御よみ被成候処、御溝紅葉といふ題、故事御存無之候ニ付、注進いたし候様被仰越、承知仕候。別紙ニあらまし注し候間、此□（一字分ノ貼紙アリ、今欠落）ニては省略いたし候。別紙之注文、被成御覧候様奉存候。

一　八犬伝評九輯上帙御再評の御答、旧冬得貴意候処、尚又御別紙ニ御再々答被仰越、忝拝見仕候。就中、再御かへしの御二歌、甘吟仕候事ニ御座候。此義者如貴意先づ是切ニて、又中帙の貴評を奉待候。

一　好□（略々一字分ノ貼紙アリ、今欠落）御覧被成候哉と奉尋候処、古今集正義といふ物おもしろく思召候よし。江戸へも本廻り候半。手透之節、書肆ゟとりよせ、可致一覧存候事ニ御座候。右作者之事もあらまし御しらせ被下、忝奉存候。

一　後の為の記御入手被下候よし、御厚礼被□（一字分ノ貼紙アリ、今欠落）越、且御賞美の趣、赧然之至ニ奉存候。永く御秘蔵可被下よし、尤安心仕候。

一　黙老子帰郷日記も思召ニ叶候よし。右之趣、彼人江申遣し候半。さぞ悦れ候事ト存候。尤好人物ニ候へバ、懇友ニいた

Osaka Shoin Women's University Repository

し候事ニ御座候。

一　いはでもの記、此余も御めにかけ度蔵書の事、先便得貴意候処、被成御覧度思召候間、貸□（一字分磨損不明）いたし候様被仰越、承知仕候。然ル処、去春中黙老子へも約束いたし、見せ候半と存候内、彼老、讃岐へ被帰候。依之、当地筆工ニ写させ候而差遣しくれ候様、旧冬被申越候。左候へバ、先ヅ黙老頼の分写しとらせ、その後取揃、貴兄ヱ御めにかけ候方、ゆる〳〵と被成御覧候ニ御便利と奉存候。さばかり御急ギも不被成候御様子ニ付、右之通り取斗可申哉ト存候。なれども、筆工とかく不精者ニ候へバ、存候ゟ少々及遅延可申候。此段、かねて御承知可被成下候。それともはやく被成御覧度思召候ハヾ、後便ニ可被仰越候。黙老子頼の写しハあとにいたし貸進いたし候とも、いづれとも、任貴□□（約一字分ノ貼紙アリ、今欠落）奉存候。

一　八犬伝、此度出板の三冊者、板元急ニ金子入用之義有之、是非正月二日うり出し度よし、折入てたのミ候故、前書のごとく早急ニ挍合いたし、間ヲ合せ遣し候事ニ御座候。右のわけ合故、登せすり本者、江戸賣出し後すり込せ、遣し候よしニ付、大坂うり出しハ正月下旬歟、二月ニも及び可申候。大坂ゟ御地へ廻り候本者、いよ〳〵おそく成り可申候。走りを可被成御覧奉存候○八犬伝古板七輯迄、いよ〳〵丁子やかひ取、板ハ大坂ゟ廻船ニ旧冬つミ出し候よし。右代金の内、百幾十両とやら、為替にいたし、旧冬丁平ゟうりぬし河長ヱ為済候故、此三冊うり出しを急ギ候処、正月二日ハうり出しの上時節故、景色、前の四冊ゟ格別宜く、二日八時迄ニ三百部不残うり出し、八時過ゟ大酒もりにて祝ひ候よし。板元大歓びニ御座候。

一　去年大坂ニて出板の八犬伝錦画折本、其節貴兄ゟ御噂承り候処、旧冬、大坂自板元、丁子やヱ見せ本一本差越し候よしニて持参、致一覧候。上方細工ニハ奇妙によく出来候。乍然、いろずり・金摺等ハ江戸にて禁忌故、売買不成候。をしき事ニ御座候。

一　旧冬、葺屋町芝居ニて、春狂言に八犬伝をいたし候よし、をさ〳〵評判聞及び候処、故障出来候歟、口状書・飾り物等をとり収め候よし、早春噂御座候キ。興行せバ当るべきに、をしき事と人々申候。

Osaka Shoin Women's University Repository

一　仙石家の一件、旧冬十二月九日ニ落着いたし候。右御裁許御書付写し、并ニ仙石左京梟首罪過書の写し等も、致一覧候。もし内々可被成御覧度思召候ハヾ、後便ニ可被仰越候。よほど長文ニて、十四、五枚有之候間、容易に写しとりがたく候。御望ニ候ハヾ、写させ候て、可致進上候。

一　旧冬、御地例ゟ寒気つよく御座候よし、江戸も同様ニて、日々風烈、寒気凌ギかね候。乍然、雪ハ稀ニて、寒中薄雪両三度ふり候のミニ御座候。いかではやくあたゝかに致し度、老人是のミ待かね候。折角御憑(カ)、御自愛専一ニ奉存候。尚永日ニ又可得貴意候。恐惶謹言

正月六日　　著作堂　解

桂窓大人

梧下

尚〳〵、家内一同宜申上候。早春も矢張せわしく、不得寸暇、只うざ〳〵と致消光候。御亮察可被成下候。　以上

右天保七丙申年一月六日付け桂窓宛馬琴自筆書翰一通、かつて昭和四十六年十一月、東京古典会『古典籍展観大入札会目録』に「四七〇　馬琴書簡（下見）小津桂窓宛　一巻」とあるもので、ときにわたしは入手に失敗し、以降その行衛や存否・所在に心がけているが、ついてはいまだ一切の消息を聞知しない。ここに翻刻のこの作業は、たまたまかねて架蔵の複写資料によったのだが、湿式版の故か字影やや鮮明を欠き、筆走りや墨つきなど微妙のはしばしに於て些との隔靴掻痒感なきにもあらず、必ずしも魯魚の読み謬りなきを保し難い。しかも敢えてかく試読した所以は、以て原翰出現の機縁となるを冀うからばかりのことである。

Osaka Shoin Women's University Repository

当状中「詩句題ニて御歌御よみ」云々の条に「別紙之注文、被成御覧様奉存候」とみえる同日付け別紙之注文の一書は松阪某家に現蔵、その裏端書に馬琴筆「桂窓様　二」とあるが、「二」とは本翰本状に対する別紙の意であろうか。天理図書館『ビブリア』七六号に翻刻紹介した。更に本状に同日の天保七年一月六日付け馬琴書翰としては、桂窓に同郷の馬琴知友殿村篠斎宛の長翰一通あり、天理図書館蔵。同館善本叢書和書之部第五十三巻の二「馬琴書翰集翻刻篇」に所収、記事多く相重なり、相互に補完する条々も少なくない。

当状所見「八犬伝九輯中帙」は天理図書館蔵。原刻本「新編金瓶梅第四集」は桂窓の西荘文庫目録に未見、早く散佚したのだろうか。なお瀧澤家現蔵本は所謂改刻の後刷本である。「俠客伝」「八犬伝」の評答については右善本叢書和書之部第十二巻「馬琴評答集」解題参照。且つ、「平妖伝」については同善本叢書漢籍之部第十二巻「三遂平妖伝」解題参照。西荘文庫本「後の為の記」「いはでもの記」、ともに天理図書館蔵。黙老「帰郷日記」は早稲田大学図書館蔵。